

GUEST

遠赤青汁株式会社（愛媛県東温市）
高岡 照海 代表取締役



畑づくりから手がけた青汁製品を世界へ

全国商工会連合会の中小・小規模企業成長実行本部、増山としかず本部長が全国の経営者に話を聞くコーナー。第2回は、アジアをはじめ海外での販売にも力をいれている遠赤青汁の高岡照海代表取締役を訪ねた。

耕作放棄地を開墾し、ケールを育てて製品化

増山 御社は青汁製品はじめてとする健康食品などの製造・販売を手がけられていますよね。

高岡 創業は平成4年、私が50歳のときです。それまで造園業を営んでいましたが、マンシヨン中心の都市開発が全盛の時代で、造園業に先はないと思います。

増山 なぜ、青汁だったのでしょうか。
高岡 私は若い頃、大病を患った際に薬の副作用で生死の境をさまよった経験があり、そのときに出会った



増山 としかず

ますやま・としかず ● 全国商工会連合会 中小・小規模企業成長実行本部長。東京大学卒業後、昭和60年、通商産業省（現経済産業省）入省。中小企業政策や通商貿易政策など産業政策全般に取り組む。平成24年、北海道経済産業局長。平成26年、中小企業基盤整備機構筆頭理事

青汁で健康を取り戻しました。それ以来、私はずっと、野菜をしつかりと摂るバランスのとれた食生活の大切さを実感していました。そんななか、新聞で若い女性がアトピーを苦に自殺したという記事を読み、アトピーは食生活のアンバランスが原因であり、青汁で救えた命だったのではないかと痛感したのです。

そこで、野菜の栄養を手軽に摂取できるように青汁の錠剤を開発しました。無添加での製品化には3年の歳月を要しました。

増山 もともと造園業だった高岡社長が一から開発するとなるとご苦労

もあったのではないのでしょうか。

高岡 原料となるケールを栽培する畑づくりからこだわりました。有機栽培を実現するために、化学肥料の汚染がない耕作放棄地を借り、私自身が重機で開墾し、有機肥料を使って元気な土づくりをしました。栄養成分、味ともに十分なケールが育つ畑に変えるまで5年がかかりました。このほか、ケールの栄養素をアップするために遠赤外線乾燥するな





高岡 照海

たかおか・てるみ●遠赤青汁株式会社 代表取締役。平成4年に同社を創業。事業のほか、父の正明氏（故人、伯方塩業株式会社の創業者）が開発した桜の品種「陽光」を、その遺志を引き継ぎ、世界各地に無償配布している（正明氏の取り組みは昨年、映画化もされた）。

ど、栄養素を高めて無添加で製品化する工夫をしています。ちなみに社名の遠赤とは、この遠赤外線のことなんです。

安心・安全の製品が 海外で高評価

増山 製品はおもに国内の高級デ

パートで販売されていますが、海外にも力を入れているんですね。

高岡 もともと製品を錠剤にしたのは、手軽さはもちろんですが、青汁製品としての差別化や、海外市場を意識していたこともあります。

最初は20年ほど前、国内のデパート販売の実績が認められ、愛媛県から香港での物産展に声をかけられたことです。当時は香港在住の日本人がお客さんの中心でした。彼らのなかには食事の変化からアトピーになる人が少なくなかったもので、野菜不足の解消に勧めていました。それがいまや、有機肥料で土づくりをして無農薬で育てた作物が、安心・安全の代名詞となり、弊社の製品が香港の人々に感動されるようになりました。近年では香港での四国物産展を6年連続で主催したり、世界最大のオーガニック専門見本市Bioファに2年連続で出展、愛媛県主催のハワイ商談会へも出展しています。

ただ、物産展や商談会で海外に出て行きたいと思っても、簡単には連れて行ってもらえません。だから何よりもまず、出品してほしいと頼まれるようになることが大事だと私は思

いますね。

増山 そこが、ポイントなんです。日本の中小・小規模事業者の方々も、そうやって、さまざまな海外進出の機会や制度をもっと積極的に活用できるといいですね。たとえば市場調査や商品開発の補助が受けられる中小企業庁の「JAPANブランド育成支援事業」をはじめ、情報収集から専門家の活用、販路開拓まで、中小企業庁や中小企業基盤整備機構、日本貿易振興機構（ジェトロ）、商工会などによるさまざまな海外展開支援施策が用意されています。また、全国商工会連合会が事業者を募って出展する展示会などを活用してもいいでしょう。

高岡 海外展開は弊社にとって、これからだと思っています。中国人観光客の「爆買い」に象徴されるよう

に、アジアを中心に日本の安心・安全な製品に注目が集まるようになりました。こうなるまで、20年待ちましたので、これからが楽しみです。

増山 ITの活用にも積極的なのでしょうか。昨年は「平成27年攻めのIT経営中小企業百選」に、四国で唯一選定されています。

高岡 IT活用は時代の流れです。青汁を飲んでいるから、「よしこれだ！」って、ピットひらめく（笑）。現在、インターネット販売の売上構成は、8割が自社のサイトです。

増山 耕作放棄地に価値を見つけて、原料から製品化まで一貫してやってきた。そして、安心・安全への強い自信があるからこそ、さまざまなことに挑戦する強さにつながるんですね。ありがとうございます。

1. 遠赤青汁の第二工場 2. ケールは愛媛県西条市の農園を中心に栽培している 3. 青汁の錠剤製品（写真右）のほか、高岡社長がボランティアで配布を続ける桜「陽光」のエキスを配合した製品（中央・左）も開発、販売している

